

ケアマネ SAPPORO

2018.8.1 発行 第113号

一般社団法人 札幌市介護支援専門員連絡協議会

〒001-0010

札幌市北区北10条西4丁目1 SCビル2F
TEL 011-792-1811 / FAX 011-792-5140

発行

日本ケアマネジメント学会を終えて	I	ケアマネのためのメンタルヘルス実践講座	IV
日本ケアマネジメント学会を終えて	III	信頼されるケアマネのコミュニケーション	V
研究大会in北海道 研究事例発表を終えて	III	大切なことは横のつながり	VI
研究大会in北海道 研究発表を終えて	III	ケアマネ奮闘記～施設ケアマネ～	VI

「日本ケアマネジメント学会を終えて～ケアマネジャーに期待すること・担うべき役割～」

日本ケアマネジメント学会第17回研究大会
大会長 奥田 龍人

第17回日本ケアマネジメント学会研究大会は、平成30年5月19日(土)と20日(日)の2日間、札幌市の北星学園大学を会場に開催され、約900名の方が参加しました。一般口演、ポスターセッションは93演題に及び、ケアマネジメント実践を深めることができました。

大会テーマである「北の大地から、地域まるごとケアマネジメントへの挑戦」は、人口減社会を迎える中で地域の諸課題を解決していく活動を、ケアマネジメントという観点から考えていこうというもので、その内容に沿った講演、シンポジウムなどを開催しましたので、その一部をご紹介します。

市民公開講座(勇美記念財団との共催)では、前沢政次先生(ひまわりクリニック京極所長)から「地域まるごとケア～あるがまま、ないがまま」と題して、利用者に寄り添うケアの意義などをご講演いただき、併行して「地域まるごとケア～「わがまち」を育てる～」と題して、五十嵐智嘉子氏(HIT)、大原裕介氏(社会福祉法人ゆうゆう)、松村博文氏(北方建築総合研究所)による鼎談を行い、人口減社会の中で魅力的な「わがまち」の育て方を議論しました。当別町の丸ごとケアの取り組みなど、学ぶところが多くありました。

実践報告1「介護予防への取り組み、ここから、これから」では、函館市、池田町、鷹栖町の取り組みの好事例を学びました。特に函館市の取り組みは、大都市である札幌市には大変に参考になるの

ではないかと思いました。

教育シンポジウムでは「専門領域におけるケアマネジメントの現状と課題」をテーマに障害、生活困窮、刑務所出所者支援、スクールソーシャルワークなどの多彩な分野のケアマネジメント実践の報告がありました。ソーシャルワーク領域におけるケアマネジメントの今後を示唆する内容であったと思います。

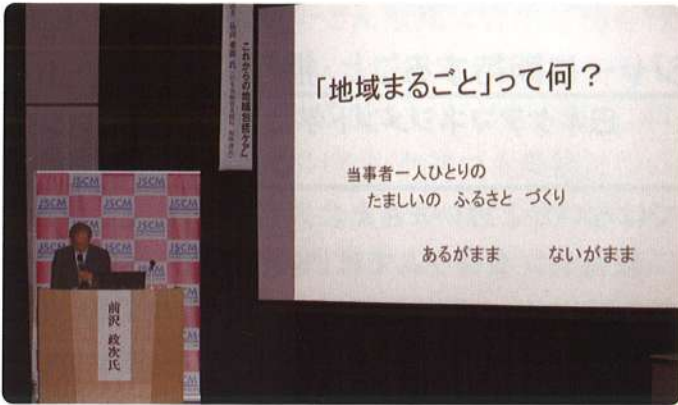
シンポジウム「地域まるごとケアマネジメントへの挑戦」では、本別町、北見市、札幌市、江別市で地域づくりを実践している方々の熱い討論がありました。地域ごとの課題の違いと、しかしながらアプローチは共通する取り組みであると感じました。この共通するものが何なのか、ケアマネジャーの関わりはどうあるべきなのか、大きな問題提起をいただいたと感じました。

私の大会長講演ですが、「地域課題は縦割りの制度では対応できなくなっていることから、地域包括ケアの深化により『我が事まるごと』の地域社会づくりを目指したい」と大会テーマの狙いを説明し、そのため、ケアマネジャーには、①利用者の力を引き出す(エンパワメント)、②利用者・家族の環境を調整する(ケアマネジメント)、③利用者を取り巻く社会環境に働きかける(ソーシャルアクション)ことを期待したいと、提起しました。大会全体を通じて、ケアマネジャーの担うべき役割が明らかになったのではないかと思います。

また、今年度の優秀演題は14名の方が選ばれ、札幌市からは野知正太郎さん(札幌市白石区第2地域包括支援センター)の「介入困難な高齢者支援における、インフォーマル資源との連携～認知症が疑われる独居高齢者の事例を振り返って～」が選ばれました。まさに大会テーマに沿った内容の好演題でした。

この大会は、1年以上前から北海道の学会員、北海道介護支援専門員協会、札幌市介護支援専門員連絡協議会、関係団体等で構成された17人の

実行委員会を中心に準備してきました。当日協力スタッフとしては、札幌市介護支援専門員連絡協議会の方々と道内の認定ケアマネジャーの方々を中心に80人もの方が参加してくれました。また、交通案内や資料の袋詰め、トートバッグや記念品、当日のカフェ運営など、札幌市内12カ所の就労支援事業所のご協力をいただきました。紙面を借りて、札幌市介護支援専門員連絡協議会の会員の皆様に深甚の感謝を申し上げます。



前沢政次先生による市民講座



シンポジウム報酬改定で「生活」はどのようにかわるか



就労支援事業所で作成したトートバッグとポストカード



一般口演白石区第2地域包括支援センターの伊藤さん



閉会式での優秀演題表彰

日本ケアマネジメント学会第17回 研究大会in北海道を終えて

札幌市介護支援専門員連絡協議会
白石区支部長(北海道大会実行委員) 伊藤 和哉

この度は、学会スタッフとしてお手伝いいただきました会員の皆さま、当日ご参加いただきました会員の皆さまに多大なるご協力をいただき、感謝申し上げます。奥田大会長からは、参加人数も目標に達し、大きなトラブルもなく成功裏に終わることが出来たとのお言葉をいただいております。これも、皆さま方のご協力があったことですので、心よりお礼申し上げます。この度は、誠にありがとうございました。

研究発表を終えて

札幌市白石区第2地域包括支援センター
介護支援専門員 野知 正太郎

・研究を出した経緯

日本ケアマネジメント学会研究大会には、約4年前から毎年参加していました。自身の事例から得られた知識や成果を研究として振り返り発表することは、自らのケアマネジャーとしての研鑽に繋がります。また、全国のケアマネジャー・医療福祉関係職の方々に研究発表を聞いていただきご意見をいただくことで、視野が広がります。そういった自身の研鑽が、ひいては利用者様のためになっていくのだと考えます。

研究にあたって大変だったこと、良かったこと

事例の中で自身が伝えたいと思っていることと、研究の成果として還元できる部分は異なるため、客観的に整理することが大変でした。一人で抄録を作成していると客観性を維持することが難しくなってくるので、共同研究者や指導して下さる方々と一緒に抄録を作成できたことが良かったと思います。

・発表を終えて良かったこと、思うこと

自分は事例のことをよく知っていても、聞く側にとっては全く知らない事例であるため、伝えたいポイントはどこなのか、焦点を十分に絞っておくことは大切なのだと改めて感じました。この度、僥越ながら優秀賞をいただくことができました。これもひとえに皆様のおかげであり、この場を借りてお礼申し上げます。

日本ケアマネジメント学会第17回 研究大会in北海道 研究事例発表を終えて

あいしい介護相談センター
介護支援専門員 木元 国友

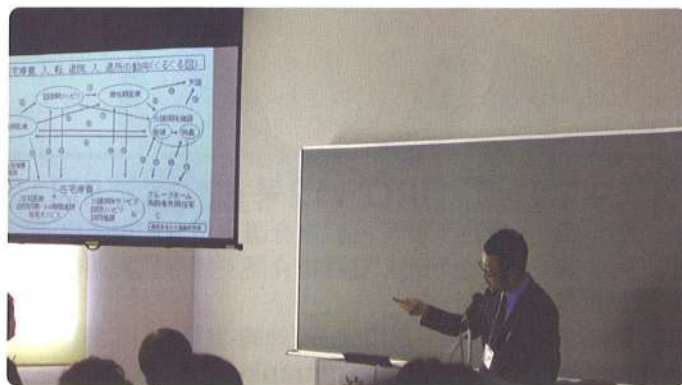
5月19日(土)～20日(日)に開催された日本ケアマネジメント学会研究大会in北海道に参加しました。そして今回は参加だけではなく、研究発表もさせていただきました。私自身は認定ケアマネジャーでもあり、日本ケアマネジメント学会で開催している「学会発表塾」にも申し込みをするなど、以前から「研究発表をしたい。」「内容はどうしようか?」と考えていました。そのような中、幹事として参加している「西区在宅ケア連絡会」の活動から考察したことを発表したいと考えました。

西区在宅ケア連絡会幹事会の場で相談をさせていただいたところ、承諾を得てさらには幹事の方々の強い後押しもあり抄録を提出させていただきました。

実際に「地域包括ケアシステムの基盤となる医療・介護の地域ネットワーク～札幌市西区在宅ケア連絡会の活動について～」をテーマに、「地域包括ケア・介護予防・総合事業②」の分野で口頭発表をいたしました。

当日は緊張もありましたが、思い切って発表をさせていただきました。閉会式には思いもよらなかったことが、日本ケアマネジメント学会では閉会式の中で優秀演題の表彰式を開催しているのですが、私の演題が「優秀賞」に選ばれました。貴重な体験をさせていただきましたが、抄録を作成し発表後の質疑応答のなかで、今後は参加者にアンケートやインタビューをとりさらに考察を深めていきたいと思いました。

次回は仙台で研究大会が開催されるので、また研究発表をしてみたいと感じた大会でした。



ケアマネのためのスキルアップ情報コーナー

ケアマネのためのメンタルヘルス実践講座 第4回 「うつと自殺念慮」

知っ得
特別授業

札幌市保健福祉局 精神保健担当部長

精神保健福祉センター所長 鎌田 隼輔

前は『虐待』を取り上げました。今回は『うつと自殺念慮』に焦点をあててみます。

【妻と死別した70代男性Aさん】

隣町に住む娘の勧めでケアプランの作成のために、1人暮らしの70代男性宅を訪問しました。半年ほど前に急に妻を亡くし、以前のように人と会う気も起きず、食欲もわきません。かかりつけ医への通院も途絶えがちな様子です。寝つきが悪いせいか、ここのところ飲酒量も増えてきました。元来、几帳面で、妻の介護をしていた時も室内は片付いていましたが、今では乱雑に散らかり、少し悪臭もします。ケアプランの希望を尋ねても、ためいきをついたり、「あなたが決めてください」と言ったりでなかなかすすみません。あなたならどう対応しますか？

Aさんの状態をアセスメントしてみましょう。症状として、睡眠障害(入眠障害)、食欲不振、意欲の低下、判断力・思考力の低下、憂うつ気分が見られ、生活の質も低下している様子です。飲酒量の増加やかかりつけ医への受診が滞りがちなのも気になります。「うつ病」の状態にあると判断できます。居宅介護のヘルパーが導入されただけでは改善は見込めそうにありません。早期に精神科医療につなぐ必要があるようです。うつ病では、自殺念慮の有無を確認する必要があります。今回のケースとは異なりますが、高齢者のうつ病では、不安や焦燥感が強くなりやすい特徴があり、認知症と紛らわしいタイプや身体症状が前景に現れるタイプもみられます。

訪問して、30分ほど経過しましたが、話がなかなかすすみません。「うつ病」を疑い、自殺念慮について尋ねてみました。「ずいぶんとお疲れのようですね。奥様がなくなられて、辛い毎日だとお察しします。そのような辛い状況で、生きていて

もしようがない、などと考えてしまうことはありませんか?」。Aさんは、ゆっくりと「ええ、先日も生きているのが嫌になり、かかりつけ医からもらっている睡眠薬を3日分飲んでしまいました。こんな自分が恥ずかしいです」と答えました。あなたならどう対応しますか？

致死量ではなくても、決められた用量以上をまとめて服用する行為は自殺企図と考えます。自殺念慮や自殺企図を打ち明けられると、だれでも不安な気持ちになります。無意識に話をそらしたり、そのような行動を止めなくてはいけないとの思いから、生きるように説得しようと話したりしがちです。そのような行動は、勇気を出して自殺念慮を打ち明けてくれた本人をがっかりさせるばかりか、傷つけてしまいます。死にたい気持ちを打ち明けてくれたことに敬意を払い、その辛い気持ちに寄り添う姿勢が大切です。ひとりになると死にたい気持ちが強まるようであれば、本人と相談した上で、家族やかかりつけ医に連絡してひとりにならないような対策を相談する必要があります。また、高齢者の場合は「精神科」受診を嫌がる方が少なくありません。精神科医療が必要であっても、まずは、信頼しているかかりつけ医(内科)などに受診するのが良いかもしれません。

高齢者、男性、自殺企図歴あり、配偶者との死別などの要因が自殺の危険因子として、知られています。Aさんにも当てはまります。信頼関係をしっかり作り、娘さんとも協力しながら、精神科医療につなげられるのが理想です。そのためには、精神科医や精神保健福祉士などの専門職が、関係者のネットワークの輪に入ってもらえるような関係づくりを行うことが大切です。

キーワード 高齢者のうつ病、自殺念慮の評価、精神科医等とのネットワークづくり

ケアマネのためのスキルアップ情報コーナー

信頼されるケアマネのコミュニケーション 第3回「信頼」

知っ得
特別授業

北海道医療大学看護福祉学部(コミュニケーション学)
准教授 長谷川 聡



今回は「信頼」についてお話しします。

最近、介護・福祉関係者の「信用」を失う悲しい事件がいくつかありました。これがケアマネの皆さんの「信頼」を損うきっかけにならないかと心配です。

今、使い分けたように、「信頼」と似たことばに「信用」があります。「信用」と「信頼」は違います。「あの人は信用できる」と言います。それは、それまでの付き合いの中で、その人のことばや行動に嘘やいい加減さがなく、裏切られたことがないような時にそう表現します。

「あの人は信頼できる」とも言います。今から間違いなく期待通りに、あるいは期待以上に何かをしてくれるとか、任せられると感じた時にそのように言います。つまり「信用」とはこれまでの実績や言動に嘘がなく、過去について疑うことのないことを指します。対して「信頼」はこれから先の付き合いの中で、何かを頼んだり任せたり、意見や助言などを受け入れていく気持ちを表現したことばです。

クライアントの「信頼を得る(勝ち取る)」ということは、ケアマネがその人と出会った時から、一つ一つの言葉や行動がクライアントから評価され、この人なら間違いのないという「信用」を得て、その上でこの先、クライアント自身がその情報提供や助言を受け入れて、療養・介護生活を切り開こうと進んで行くことを意味します。

この時、大切なことはあなた(ケアマネ)も「クライアントを信頼する」ことです。ケアマネが「できること」「して良いこと」「すべきこと」を区別し、本人や家族に任せるとは任せます。致命的な結果が予見されない限り、クライアントの選択はケアマネの価値観で誘導しないことです。

お互いに信頼し合える付き合いを「信頼関係」

と言います。注意すべきことはケースワークが「根拠のない信頼関係」の中で進行することです。例えばクライアントがあなたの言動からではなく、「ケアマネだから」「<市の人>だから」という外形で「信用している」「信頼しようとしている」と感じることはありませんか。例えばあなたは、その人が「それをする/できる」と思っていないのに「しておいてくださいね」と言うことはありませんか。「うわべの信頼関係」は依存関係や庇護主義に陥るので避けなければなりません。ちょっと難しい話でしょうか。

最後に信頼関係の築き方をお伝えします。実はこれまでの話題「傾聴」「受容」そして、お話ししていないが良くご存じの「共感」的態度等、これらすべてが「信頼関係を築く礎の行動」なのです。嘘、とりわけ保身や良い恰好をするための嘘や耳触りの良いことば(リップサービス)は避けましょう。誠意をもって対応することに尽きるのです。「言うは易く、行うは難し」というところですね。でもコミュニケーション実践研究に関わってわかったことは、やはりこれだけのことなのです。



大切なことは横のつながり

札幌市介護支援専門員連絡協議会
西区支部 支部長 甲斐 洋平

今年度より、札幌市介護支援専門員連絡協議会西区支部の支部長をさせていただくことになりました。今年度は役員が大きく変わり、新しいメンバーが多い西区支部ですが、皆さんの力となるような研修を企画・運営をしていきたいと思ひます。よろしくお願ひいたします。

昨年度、西区支部では初めて管理者交流会と新人研修を開催しました。管理者交流会では、管理者の悩みや各事業所でどんな風に管理業務を行っているかを共有することができ、参加者からも参加できてよかったと感想をいただきました。新人研修でもいまさら聞けないケアマネ業務について学習と意見交換の機会をもつことで、学びにつながったとの感想をいただくことができました。この2つの研修を通して、やっぱりケアマネも事業所を越えた横のつながりが大切だなと感じました。

基本は一人で利用者と向き合うケアマネ業務。ときどき人に愚痴ったり、意見をもらったりすることで気持ちも新たに利用者様やご家族様と向き合うことができます。職場の先輩・上司には言いにくいことや福祉にかかわっていない友達にはわかってもらえないことも、事業所のしぐらみがないケアマネ同士で話をする事の大切さを感じました。

今年度も管理者交流会と新人研修を企画していきたいと考えております。事業所では言えないことを交流会・研修会の場で発散して、次の日から元気に働いていけるような企画にしていきたいと思ひますので、ぜひ皆さんご参加ください。

「ケアマネ奮闘記 ～施設ケアマネ～」

介護老人保健施設セージュ山の手
介護支援専門員 三塚 隆寛

私の勤務する介護老人保健施設セージュ山の手は札幌市西区山の手地区の閑静な住宅街にあります。当施設は札幌太田病院の関連施設として平成2年に開設し、札幌市西区山の手エリアを中心に地域福祉の拠点として活動をしています。介護老人保健施設は短期間のリハビリを行い、在宅復帰を目指す施設です。当施設は在宅復帰に力を入れており、平成30年6月からは超強化型(在宅復帰在宅療養支援機能加算II)を算定しております。その他口腔ケア加算や褥瘡ケア加算や排せつ支援加算等の新たな取り組みを行い、日々入所者様が一日でも早く在宅復帰できるよう支援を行っています。

私は認知症専門棟でケアマネジャーと介護主任を兼務しています。ケアマネジャーとしては多職種との連携を図り入所者様が希望する方向性に少しでも近づけるよう日頃から、入所者様、ご家族様との関わりを大事にしています。入所者様の一日に様子や日々の変化を伝えることで、ご家族様との関係性が深まるよう心がけています。また介護主任として、職員教育、チームケアの重要性を他職員に伝え、実践することで入所者様が快適に不安なく施設生活を送れるように努めています。

課題点としては入所者様は認知症の診断がわり意思決定が難しく、その方が何を求めているのか、どのように関わることで不安が少しでも軽減できるか、在宅復帰のためには何が課題かを早急に把握する必要があります。今後も入所者様、ご家族様、関係職員と連携を図りながら業務にあたりたいと思ひます。

ケアマネSAPPORO 112号(2018年8月1日発行)

発行元：一般社団法人 札幌市介護支援専門員連絡協議会

編集：一般社団法人 札幌市介護支援専門員連絡協議会 広報委員会

広報委員長：長崎 亮一

広報委員：鈴木 晴美/宮川 亮一/姉崎 重延/小川 美穂/伊藤 和哉/大木 雅広/甲斐 洋平

e-mail : kouhou@sapporo-cmrenkyo.jp ホームページ : <http://sapporo-cmrenkyo.jp/> (札幌ケアマネで検索可)